

ぼむ・ぼむ通信

No. 59

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



～ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金から～

ぼむ・ぼむ通信 No. 59

目次

◇アフリカ干ばつ緊急募金 1

～報告：85万人の子どもがユニセフの支援で命を繋ぎとめました！～

◇知っとこ。ユニセフ 女子教育② 4

◇世界の子どもたちは今 シリア緊急募金 5

◇生協のユニセフ支援活動 ハンド・イン・ハンド募金の取り組み 7

*コープあいづ *コープぐんま *さいたまコープ *コープかながわ

*コープぎふ *コープみえ *おかやまコープ *鳥取県生協

◇トピックス

* ハイチ大地震から3年 10

* 2013年度 第31回 ユニセフ・ラブウォーク中央大会 11

* ユニセフ ラオススタディーツアーに行ってきました 12

ぼむ・ぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくとも、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。

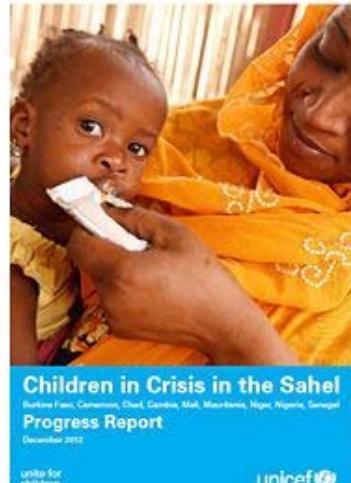


アフリカ干ばつ緊急募金

～報告：85万人の子どもがユニセフの支援で命を繋ぎとめました！～

一昨年、ソマリアをはじめ「アフリカの角」と呼ばれるアフリカ東部を襲った過去60年間で最悪の大干ばつは、アフリカ中・西部のサヘル地域に拡大し、9カ国、1,800万人を巻き込む大規模な食糧難を引き起こしました。広大なサハラ砂漠に接し、アフリカ大陸の東西に伸びるサヘル地域。雨が不足し収穫が減り、家畜が死に食べ物が尽き、食糧価格も高騰しました。

その状況の中、400万人を越える若い子どもたちが空腹に苦しみ、うち110万人が重度の栄養不良や劣悪な環境の中で命の危機にさらされました。しかし、ユニセフの支援活動により、約85万人の子どもたちが命を繋ぎとめました。本号では、子どもたちの命を守るためのサヘル地域でのユニセフの活動について、改めて報告します。



Children in Crisis in the Sahel

Burkina Faso, Cameroon, Chad, Central, Mali, Mauritania, Niger, Nigeria, Senegal

Progress Report

December 2012

unite for children

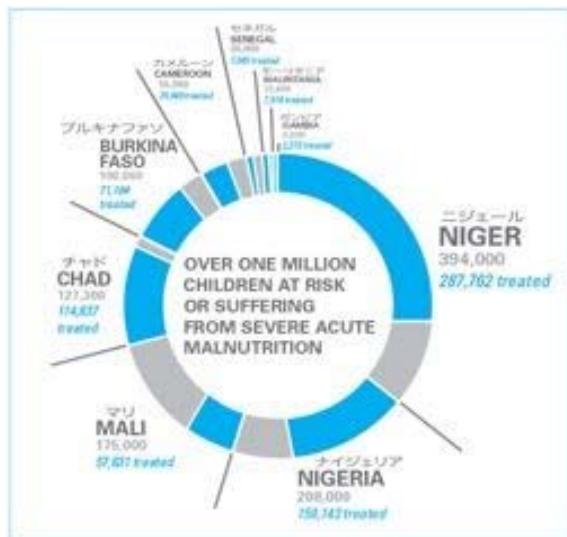
unicef

「サヘル一帯の干ばつ被害地域に関するレポート」英語版※

◆ 報告書に示された成果

「昨年から深刻な干ばつの影響を受けてきたサヘル地域の9カ国で、2012年末までに、85万人以上の重度の栄養不良の子どもたちの命が、みなさまのご支援で守られる見込み。」ユニセフは、2012年12月11日に発表した、「サヘル一帯の干ばつ被害地域に関するレポート」で、こう報告しました。

この85万人超という数字は、今年1月から9月末までの間に、この地域の保健センターなどで実際に治療を受けた5歳未満児が73万人にのぼったことを元に算出されたものです。



	重度の栄養不良の子ども*の数 (2012年当初見込)	治療を受けた重度の栄養不良の子ども*の数 (2012年9月時点)
ブルキナファソ	100,000	71,614
カメルーン	55,000	25,949
チャド	127,300	114,837
ガンビア	3,230	2,272
マリ	175,000	57,631
モーリタニア	12,600	7,918
ニジェール	394,000	287,762
ナイジェリア	208,000	159,143
セネガル	20,000	7,045
合計	1,095,130	734,171

* 子ども=5歳未満児

(出典：“Children in Crisis in the Sahel—Progress Report,” 2012, P.5–6 の表を編集)

※詳しくはこちら(英語版 PDF) : http://www.unicef.org/infobycountry/files/UNICEF_SAHEL_EmergRprt_11.12.12.pdf

◆ サヘル地域でのユニセフの支援活動

(出典: ユニセフ T・NET 通信 No.53 WINTER 2013)

ユニセフは、現地の各政府や他の国連機関、人道支援団体などと協力し、各国政府や各国のユニセフ協会(国内委員会)を通じてみなさまからお寄せいただいた資金や募金に支えていただき、サヘル地域で、こうした内容のものとしては史上最大規模の人道支援活動を展開してきました。ユニセフは、以下の分野で重点的に活動しています。

水と衛生

安全な飲み水の提供／浄水剤、貯水器、バケツが入った家庭用水キットの配布／トイレの設置／給水施設の設置／手洗いなど衛生知識の普及



©UNICEF/NYHQ2011-1353/Najwa Mekki

水不足の中、汚れた水が原因で下痢性の病気が急増。安全な飲み水の提供は、ユニセフの重要な活動のひとつです。

栄養

栄養治療センターの運営／栄養補助食の提供／被災地域での食糧支援／ビタミン A の投与／保健員による栄養指導／完全母乳育児の普及



©UNICEF/NYHQ2012-0180/Asslin

栄養不良と診断され、栄養補助食（プランピーナッツ）で栄養を摂る女の子。アフリカには栄養支援が必要な子どもたちがまだ大勢います。

保健

保健キット、医薬品の提供／保健センターの運営／予防接種の実施／マラリア予防用の蚊帳の配布／被災地域への医療チームの派遣／保健員の育成



©UNICEF/NYHQ2011-1209/Siegfried Modola

はしかの予防接種を受ける子ども。感染症にかからないように身体に抵抗力をつけるビタミン A も投与します。

教育

「スクール・イン・ア・ボックス」の提供／テント学級や臨時学級の開設／教材の提供／学校での保健・衛生指導／教員の育成



©UNICEF/NYHQ2011-1268/Christine nesbitt

木の下の青空学校で勉強する子どもたち。干ばつなど緊急事態の中でも、子どもを守り、未来を開く学校は欠かせません。

2012 年にサヘル地域で実施されたユニセフ支援活動例

- 約 4,700 箇所以上の栄養治療センターで、重度の栄養不良の乳幼児 73 万人以上に栄養治療を行いました。
- 190 万人以上の乳幼児にはしかの予防接種を実施しました。
- 水不足の村々やコレラの流行が心配される避難民キャンプで 28 万人以上に安全な飲料水を届けました。
- 蚊を媒介としたマラリアを予防するための殺虫処理済の蚊帳を、730 万世帯以上の家庭に配布しました。

◆ 具体的な成功例 ~2歳のハビビは2ヵ月後、完全に回復しました！~



2012年2月、2歳になるハビビは家族と紛争が激化するマリ北部からモーリタニアに逃れて来ました。その時、すでに重度の栄養不良の状態でしたが、ユニセフと現地の保健当局が栄養治療などを行った結果、ハビビは2ヵ月後に完全に回復しました。

◆ 今後の課題

サハラ以南の大部分の地域に雨が降り、作物の収穫高は上昇しています。しかし、今回の干ばつで家畜を失い、長期にわたり食糧価格の高騰にさらされてきた人々が、元の生活を取り戻すためには、少なくとも2年は必要です。また、たとえ大人が十分と思う程の食糧が手に入れられるようになったとしても、それが、子どもたちの栄養不良問題の解決に必ずしも直結しないという事実もあります。栄養不良状態の子どもたちは、栄養を吸収する力も損なわれてしまっているため、継続的な治療・ケアが必要です。

(出典:日本ユニセフ協会 HP「アフリカ干ばつ緊急募金 第90報」、「Children in Crisis in the Sahel – Progress Report」を編集)

◆ アフリカ干ばつ緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、ソマリアとその周辺国を含む「アフリカの角」地域と、アフリカ中・西部に位置するサヘル地域の子どもに対してユニセフが行う緊急援助を支援する **アフリカ干ばつ緊急募金**を受け付けています。あたたかいご支援よろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座
振替口座: 00190-5-31000
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

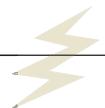
*通信欄に「アフリカ干ばつ」と明記願います。
*送金手数料免除されます。

男女を問わず、とにかく、子どもが学校に通うことは大切です。

「初等教育の達成」は、ミレニアム開発目標の一つでもあります。

しかし世界には、それがかなわない環境にある子どもたちが多く存在することも事実です。

とりわけ女子は、差別を受けて、学校に行けないことが多いのです。



女子を取り巻く差別・厳しい環境

- ・家事・子守などで、学校に行けない
- ・女子には、教育は必要ないとの偏見
- ・風習としての、女性器切除※
- ・児童婚（→早すぎる妊娠→妊産婦死亡→新生児死亡率や罹患率が上昇）
- ・家庭内暴力
- ・性産業への人身売買
- ・HIV / エイズの感染危険
- ・学校に行けず知識がないため、仕事の機会に恵まれない・賃金が安い



女子が教育を受ける (学校に行く)ことで、 期待できること



女子が学校に通って教育を受ける→児童婚から逃れられる→早すぎる妊娠から逃れられる→多産による身体的ダメージが減る→栄養・衛生に気をつけた、ていねいな子育てができる→妊婦・子どもの生存の可能性が高まる。

そして、将来的に、教育を受けた女性の子どもは、生存率や栄養状態が高く、学校の出席率も高い→仕事に就ける→貧困からの脱出が可能になり、良い環境が生まれる。



母となる女子が、きちんと学校へ行けて、学べること。

字が読めて、衛生の知識、栄養の知識があること。

その母のもと子どもたちが健康に育つ。

そんな良い循環が生まれることを望んでやみません。

※ 次号でとりあげ解説します。

「2007年世界子供白書」「ユニセフニュース212 p 6~8」参照の上編集



世界の子どもたちは今

シリア緊急募金



戦闘が激しさを増すシリアでは、国外へ避難する人々が増え続けています。

過去10年間で最も厳しい寒さに見舞われ、大雨や雪が避難している人々を苦しめています。

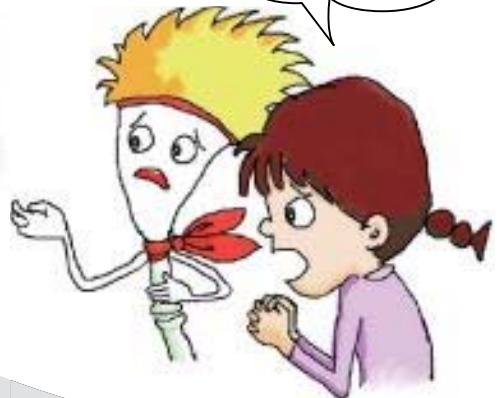
その多くは濡れた衣服のまま何も持たずに凍えながら避難生活を送っています。

避難している子どもの数

約210万人

肺炎や病気。栄養不良やケガも心配だけれど、日々『暴力』や『死』を目の当たりにして来た、子どもたちの心が、とっても心配なんだ。

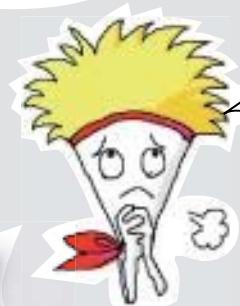
パン屋や、学校にも爆弾が落ちたんでしょう？
人が多く集まる所が狙われてるんだって。
水や食料も足りないし、寒いし…
大変な事になっているんだね！



『シリア』って、学校で習った、あのユーフラテス川の上流の方だよね？

このあたりは
メソポタミア文明の中心地でしょ。
アルファベットの発明地でしょ。
…それから…

…そう、この地域には
すばらしい文明と歴史があるんだよ。
そして、さまざまな人種や民族、宗教・
宗派が入り混じっている地域なので、
複雑でむずかしい問題もあるんだ。
そこに、「民主化運動」をきっかけに、
『内戦』が起こったという訳。



そんなにひどい状況なら
急がないと！
準備はOK！



今回は連れて行けないよ。
日本の外務省も『危険情報』
を出して、退避するよう
勧めてるんだ。

ユニセフが
『シリア緊急募金』を
はじめたよ。お兄ちゃん！
私たちは、みんなに呼び
かけて、『募金』で
応援しよう！

シリア緊急募金にご協力をお願いいたします

シリアの現状

激しさを増す戦闘から、いまだに国外避難する人々の波が止まらないシリア。シリアや周辺の国々は、寒波や大雨、雪などの悪天候で、非常に厳しい状況に陥っています。

隣国ヨルダンでは、今年1月に入ってからも平均で1日あたり1,000人あまりが避難し続けており、その多くは、雨や雪で濡れた衣類の他、ほとんど何も持たないまま、凍えながら不自由な避難生活を送っています。



(出典:日本ユニセフ協会ホームページ)

この紛争の影響を受けている子どもの数は、シリア国内外で、確認されているだけでもおよそ210万人。厳しい寒さの中で、子どもたちの安全と命を守る支援が急がれています。

ユニセフの対応

国連児童基金(ユニセフ)は、シリア国内とシリアからの避難民を受け入れている周辺の国々において展開してきた人道支援活動を、さらに加速させています。冬を乗り切るための衣類や防寒具の配付や感染症を予防するための予防接種、衛生環境を保つための衛生用品の配布やトイレの設置、安全な水の提供などに加え、故郷を追われた子どもたちへの心のケアや教育の支援も行っています。これらの支援を今後半年間続けるための資金として、ユニセフは、国際社会からの支援を呼びかけています。(2013年1月11日現在、総額1億9,500万米ドル)



シリア緊急募金

郵便局(ゆうちょ銀行)
振替口座:00190-5-31000
口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「シリア」と明記願います。
*送金手数料は免除されます。

※現地の詳しい情報を日本ユニセフ協会ホームページにて随時紹介していますので、ぜひご覧下さい。
<http://www.unicef.or.jp/kinkyu/syria>

生協のユニセフ支援活動

Partnership



2012年も、全国の生協が「ハンド・イン・ハンド募金」に取り組みました

世界の危険な状況に置かれている子どもたちを守り、幸せな未来を実現するために展開される「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金活動」。2012年のテーマは「ワクチンで、守ろう小さな命。」でした。全国の生協でも多くの方が参加し、募金を呼びかけました。

各地の取り組みをご紹介します。

-----ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金とは-----

一人ひとりがボランティアとして参加するユニセフの募金活動。

「世界の子どもたちの笑顔のために」の想いを共有し、文字どおり“手に手をとりあって”、募金を呼びかけます。

1979年、国際児童年の年に始まり、今回で第34回目を迎えました。

毎年11月～12月、全国一斉にキャンペーンが展開され、これまでに延べ60万人以上のボランティアが、学校や職場、街頭などで、この活動に参加しています。

HandinHand

● ● ● コープぐんま ● ● ●



平和ユニセフ委員会
会津医療生協組合員が
いっしょに



HandinHand

● ● ● さいたまコープ・パルシステム埼玉 ほか ● ● ●



毎年、大々的にハンド・イン・ハンド募金に取り組むさいたまコープでは、埼玉県ユニセフ協会のボランティアと協力し、埼玉県内 26 カ所で、活動しました。組合員や職員、計 331 名（子ども 74 名）が参加しました。

● ● コープかながわ ● ●



師走の土曜日・駅西口・お屋前の 1 時間という、人が集まる好条件がそろい、参加者も、おうち CO-OP のセンター長 5 名のほか、カエルくんとラビットが加わりました。

総勢 21 名、寒さも吹き飛ぶような活気で、募金活動を行いました。

● ● ● コープぎふ ● ● ●

12 月 22 日、コープぎふ西濃支所が呼びかけ、大垣市内 2 カ所で、生協以外の店舗のスペースを借りてハンド・イン・ハンド募金を行いました。



コープぎふの組合員のほか、地元の中学生・高校生など、約 120 名が協力し、募金活動に取り組みました。

* 参加者の感想 *

- 『募金活動中とても寒かったけど、多くの人の善意が集まってあたたかい気持ちになりました。』
- 『地域の中学生と一緒に活動してくれたため、足を止めてくれる人が多かったと思いました。』
- 『来年も参加するように、中学校の後輩にも、伝えます。』

● ● ● おかやまコープ ● ● ●

12月14日、コープ倉敷北では、店舗の中にセッティングした温かなスペースで募金を行いました。



お茶を飲みながら
交流や勉強。
ユニセフ製品も頒布。

学習用のポスター
は手作り！

12月15日、新見会場では、
コープ店舗がないため、地元
のショッピングセンター内の
スペースを借りて、ハンド・
イン・ハンド募金に、
取り組みました。

活動メンバーは少な
いものの、実行委員会
を立ち上げ、ユニセフ
について、ていねいに
勉強を、すすめてきま
した。



12/15 開催

● ● ● コープみえ ● ● ●

水色のユニセフ
ジャンパーは
青空のよう…



12月23日～24日、三重県内各
地で、コープみえの組合員、職員
が参加し、ハンド・イン・ハンド
募金が行われました。

「道の駅まんぼう」で行われた活
動では、三重県ユニセフ協会のボ
ランティアとコープみえ職員が協
力して、募金への協力を呼びかけ
ました。



● ● ● 鳥取県生協 ● ● ●



赤ちゃんを
抱いたママも
がんばる。

双子ちゃんが
がんばっている。



12月11日、
イオン日吉津



店の店頭で約2時間、募金を行いました。みぞれが降り、とても
寒い日でしたが、1歳～4歳の子どもたちが手伝ってくれたこと
もあり、たくさんの方が足を止めてくれました。

Hand in Hand

このほか、多くの生協でハンド・イン・ハンド募金に取り組まれ、
全国から約300万円が日本ユニセフ協会に送られました。

(2013年1月31日現在)



2010年1月に起きたハイチ大地震から3年が経ちました。ハイチの子どもたちを取り巻くさまざまな問題の多くが、地震が起きる以前からの課題でもありました。このほど暫定ながら子どもたちの置かれている状況が、改善されつつあるという調査結果が明らかになりました。

・大地震から3年 子供たちの状況は確実に改善・ [2013年1月10日ハイチ発]

八 イチ地震発生から3年を迎えるにあたり、新たに行われた全国家庭調査の暫定結果によると、子どもたちの教育、栄養、保健、衛生の各分野の状況が、2006年の状態から大きく進展していることが明らかになりました。

また、生後6ヶ月から59ヶ月（4歳11ヶ月）までの子どもの間の急性栄養不良の割合は、2005-2006年では10%でしたが、2012年には5%まで半減。さらに、慢性的な栄養不良の割合は、29%から22%に削減されました。

ユ ニセフ・ハイチ事務所のエドゥワール・ベグブデール代表は、次のように語っています。「この結果は、2010年の地震やコレラの流行をはじめとする様々な災害の子どもたちへの影響を可能な限り軽減するために、子どもたちを取り巻く様々な環境を改善する取り組みを支援してきた、ハイチで活動する多くの組織・団体の、3年間にわたる努力の賜物です」

「今回の調査結果は、また、この国が、これまでの成果を維持し、さらに今も残る課題や進展が立ち遅れている分野の改善に取り組めるよう、国際社会の継続的な支援を訴えるものもあります」（ベグブデール代表）

5 歳未満児死亡率も過去15年間減少を示し、1997-2001年時点では出生1000人中112人だったものが、2002-2006年時点では96人、そして今回、88人と報告されています。一方、改善された水源（安全な水）を利用する人の割合は65%と、変化はみられません。

しかし、国内避難民キャンプに暮らす人の82%は、改善された水源を利用。改善された衛生設備（トイレ）を利用する人の割合は、2005年-2006年の調査では14%でしたが、2012年には、26%に上昇しました。

今 回の調査は、出産年齢にある女性や5歳未満の子ども、そして15歳から59歳の男性を含むハイチの全人口が置かれている状況を、社会経済、人口統計、健康指標の指標を用い推計したものです。前回の調査は、2005年10月から2006年6月に行われました。

また今回は、ハイチでは初めて、（ユニセフの支援で各国で実施されている）複数指数クラスター調査（MICS）も併せて実施され、その中では、子どもの“しつけ”に関する情報も収集されました。さらに、本調査は、壊滅的大地震の後、はじめて行われた人口統計調査でもあり、震災によってキャンプ生活を余儀なくされている国内避難民の状況も明らかにされました。

今 回の調査は、ユニセフや米国国際開発庁、国連人口基金、カナダ国際開発局、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の支援のもと、ハイチの人口保健省が主管となり、地元の研究機関 Institut Haitien de l' Enfance によって実施されました。



2013年度 第31回 ユニセフ・ラブウォーク中央大会



【趣旨】 これから1年間、全国で展開されるラブウォークに先鞭をつけて、ラブウォークに勢いをつける。

特にこどもの参加を促し、ボーイスカウト、ガールスカウトを含め、多くのボランティアのご協力の下に運営します。

【テーマ】『いっしょに歩いて考えよう！ アフリカってどんなとこ』

【主催】日本ユニセフ・ラブウォーク協議会

【後援】港区、渋谷区および港区・渋谷区教育委員会、文化放送（予定）

【協力】日本ボーイスカウト東京連盟、ガールスカウト東京都連盟（予定）

【協賛】記念品や飲料水を提供してくださる企業、数社（予定）

【参加費】大人 ¥1,000、こども（18歳未満）¥300

【開催日時】2013年4月7日（日）雨天決行 受付開始 9時
出発 9時30分（12キロコース）10時（6キロコース）

【開催場所】起点、ゴールともにユニセフハウス

【コース】 12キロコース：

ユニセフハウス→柘榴坂→高輪台交差点→日吉坂上→エリトリア大使館
→プラチナ通り→ジンバブエ大使館→天現寺交差点→新坂
→有栖川宮記念公園→マダガスカル大使館→ブルキナファソ大使館
→西町インターナショナルスクール→リベリア大使館→麻布消防署
→ガーナ大使館→六本木通り→六本木けやき坂→麻布十番商店街
→魚藍坂下交差点→マラワイ大使館→エチオピア大使館→柘榴坂
→ユニセフハウス

6キロコース：

ユニセフハウス→柘榴坂→高輪台交差点→日吉坂上→エリトリア大使館
→プラチナ通り→ジンバブエ大使館→天現寺交差点→四の橋交差点
→古川橋交差点→魚藍坂下交差点→マラワイ大使館→エチオピア大使館
→柘榴坂→ユニセフハウス

【申し込み・お問い合わせ】日本ユニセフ協会 団体組織事業部まで

（電話：03-5789-2012 / メール：event-dr@unicef.or.jp）

※会場での当日参加受付も行います。



ユニセフ ラオススタディツアーリポート

2013年2月17日～24日にかけて、生協や日本ユニセフ協会地域組織から計11人がラオスを訪問し、主に北部地域の山岳民族の村などで「女の子と女性の立場の向上プログラム」や「初等教育平等化プログラム」の実施状況や成果を視察しました。



2月17日	成田空港集合 バンコク経由でタイへ
2月18日	<ul style="list-style-type: none">■ ビエンチャンのユニセフ事務所でブリーフィング。 その後、空路でビエンチャンからルアンナムターへ移動。 更に車で中国国境に近い北部シン（Sing）へ移動。
2月19日	<ul style="list-style-type: none">■ ナノイ村（Nonoi）へ車で移動。ナノイ小学校＝コミュニティに基づいた学校準備プログラムの施設、学校の水と衛生に関する施設の視察。 ～「女の子と女性の立場の向上プログラム」対象の村～■ 巡回教育に関する調査が行われているパバー村（Phabath）を訪問。 ～「初等教育平等化プログラム」対象予定の村～村民と交流。
2月20日	<ul style="list-style-type: none">■ 2つのグループに分かれて、ナムデーマイ村（Namdadmai）：アカ族、 チョム村（Chom）：カム族 2つの村を訪問。 いずれもコミュニティに基づいた学校準備プログラムを視察。■ シンに戻り、郡庁舎で最高責任者（郡長）と面会・懇談。■ 県庁に隣接したシン郡教育局を訪問。シン郡の教育現場の状況や昨年実施された調査報告の結果を聞き、視察の報告・交流を実施。
2月21日	<ul style="list-style-type: none">■ ナトウイ村（Na Tuei）へ車で移動。小学校と幼稚園および就学前教育の現場を視察。校長室にて校長先生と面談。■ 午後ナムターに戻り、教育局を訪問。 ユニセフの支援による就学前教育の成果等をヒアリング。■ 国立テレビ・ラジオ局を訪問。若者による若者に向けたラジオ番組の取り組み（ユニセフ支援）について見学。CCC（子ども文化センター）にて視聴者グループの子ども達と交流。
2月22日	<ul style="list-style-type: none">■ タワン村（Tavan）を訪問。ユニセフ支援による「巡回保健プロジェクト」が訪問している小学校での予防接種や健康指導を視察。
2月23日	AM ビエンチャン市内の市場等を視察。PM バンコクへ移動。市内見物。
2月24日	朝 成田空港にて解散。

※視察の詳細は、次号でご紹介します。

ぼむ・ぼむ広場

編集後記

◆ 海外に単身赴任している父親のもとに、ある日突然、はるばる日本から、我が子が会いにきてくれた！「えっ？ なに？ どうした？」戸惑いながらも嬉しさを隠しきれず、顔がクシャクシャのお父さん。そんなTV番組がありますが、1月にアルジェリアで起きた事件は、こうした子どもたちや家族にいまも大きな不安を与えています。一方、事件の周辺国の中には、干ばつによる影響に苦しむサヘル地域の一部も含まれており、現地で活動しているユニセフスタッフの存在を思いやることしかできずにいます。

ユニセフ*コープネットワーク
ぼむ・ぼむ通信
No. 59 2013年3月15日発行
編集 グループ ぼむ・ぼむ
スタッフ・編集／小池・土橋・浜崎・松本・山本
石尾・中村・中本
イラスト／蛯沢

発行 日本生協連 組合員活動部
〒150-8913
東京都渋谷区渋谷3-29-8 コープフロア 11F
TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125
ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2013年6月14日発行予定です。

ぼむ・ぼむ通信・ひとことカード

今回の「ぼむぼむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。
次号以降の参考にさせていただきます。

生協名：

氏名（ペンネーム可）： 《組合員・役職員・その他》

ご協力、ありがとうございました！

右記の宛先までお送りください。 宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX： 03-5778-8125

MAIL： kumikatsu@jccu.coop